

ふるさと人物伝2

香月泰男 11

次建中

ハイラルで
ヤリ場のない怒りと
あせりにさいなまれて
いた泰男は
福島繁太郎
から手紙が
届きました

満洲国興業
満洲オニ六部隊
香月泰男

ハイラルは
戦争前に
通った事がある。
ほんとに飾気の
ない土地だ。

しかし君の画境には
あつてゐる。
荒漠たる草原を
対象として絵に
する事は君で
なければ
できない。

今君は恐らく
絵筆など持つ時間
はないであらう。
印象を深くきき
こんでおくことだ。

僕此頃
オナイオン・ルドン
の伝記を讀んで
ゐるが、そこに
一寸面白い事が
あつたので書き
添へておく。

知らない世界が
彼の空想力を
豊富にし
豊富にし
絵筆をとること
ができたのか
兵隊生活が絵画の
精進には大きな
休まりになつて

再び絵筆を
とることか
できる様
なつた時は
全く清新な
支持になつて
ゐた事などを
挙げてゐる。

其頃は家も
ろくになく
ロシア式の停車場
がぽつんと建つて
ゐたが今は變つた
でせう。
所謂、絵にならぬ
見景色だ

絵画は結局
人柄の現はれて
ある。

だから人間が
しっかりして
ゐなければ
駄目だ。

君は今迄とは
全く別の世界に
住んでゐる。

大に人間的に
きたへ上る
時だと思ふ。

福島の手紙は
泰男を大いに
慰めました

若輩の自分に
これほどまで
気を配つてくれる
大先輩がいて
くれるということが
ありがたかった

だが望郷の念は
止み難いものか
あります

おまえたち
クンを
食えるか
？

なん
じゃて？

食えるわけ
ないよな

じゃが、
もしここに
ハンゴ一杯の
クンがあつたら
これをついたら
内地へ帰してやると
いわれたら
どうだ？

全部は
食べきれん
じゃろう……

食いつくとは
食いつくも

ホロンバイルの草原は
5月を過ぎると
防塵眼鏡が必要な
ほどの砂塵が舞い